

令和 7 年 6 月 30 日 発行



社会福祉法人 泰仁会
特別養護老人ホーム「やさと」

石岡市小倉 4 4 2 - 1
TEL (0299) 43-0811(代)

特別養護老人ホーム「桜の郷 元気」

東茨城郡茨城町桜の郷 231-7
TEL (029) 292-3900(代)

さわらび

第 86 号



あの花は？(桜の郷 元気)

泰仁会ホームページ

泰 仁 会

検索



泰仁会ホームページ



やさとブログ



泰仁会は「いばらきダイバーシティスコア」を活用してD&I推進に取り組み、要件を満たす企業等「いばらきダイバーシティスコアチャレンジ企業」として登録しました。

登録の証としてデジタルバッジが付与されました。

潮 流



理事長 常務理事
長 施設元 郷の桜
人 直 山 永

今年2月に老人性白内障の手術を受けました。この仕事を始めた遠い昔、老人の身体の特徴として、白内障がある事を知りましたが、自分も老人にさしかかっている事を自覚しました。心臓のカテーテル検査は過去に二度受けた事はありませんが、眼の手術は初めての事であり、点眼による局所麻酔で、意識がはっきりしている中で手術は、わずか10分程度でしたが、不安が強く、手術中に緊張からか、身体がこわばっている事を感じていました。執刀してくれた医師は、不安を和らげようと、適所的な確かな声かけをしてくれました。「大丈夫ですよ。」「もう少しで

すよ。」「はい、終わりましたよ。うまくいきましたよ。おつかれさまでした」等と、胸にはモニターも付けていましたが、それ以上に私の「心の動き」がよくわかっていました。また、補助として付いていた、若い看護スタッフも、声は出さずとも、適所で、私の腕にそつと手を乗せてくれた事で、深い安心感を得ることができました。10日後にも、残った右眼を手術しましたが、同じような体験をしました。この経験は、施設での入居者や利用者みなさんへの対応時に、「言葉かけ」の大切さを再確認できた事と同時に、医師と看護スタッフの連携、手術を終えて病棟へ戻る際にも、病棟スタッフとのスピード感のある連携等、人の生命を預かり、的確な治療を行っている医療現場から、患者・利用者の視点で、あらためて多くの事を学びました。視力が驚くほど回復している喜びと同じくらいに、この医療スタッフの方々に巡り合えた喜びも大きいものでした。私ごとが続きますが、長年乗っていた愛車も不具合が多くなり、残念ながら買い替えることになり、ある若いセールススタッフとの出会いから、多くのことを学ば

せていただく機会がありました。私とはおそらく、親子ほどの年齢差があったと思いますが、客になる私への懇切丁寧な説明、そして何よりも、その誠実な姿勢には、今度の自動車を購入する決め手は、その若いスタッフを応援したいという気持ちまでにもなり、購入後もメールにて御礼と感謝の言葉を伝えました。桜の郷元気にも、今春に高校を卒業したばかりの若い介護スタッフ、そしてインドネシア・フィリピンから20代でEPA介護福祉士候補者が入職してくれました。多くの方々から信頼され、日本社会で、あるいは世界中で活躍できるスタッフになつてほしいですね。大切に・大切に見守っていきたいです。この原稿作成時に、読売ジャイアンツ終身名誉監督の長嶋茂雄氏の訃報を知りました。私自身の中で、昭和がまた遠くなつていく、という思いでいっぱいになりました。現在、桜の郷元気の入居者のみなさんの平均年齢は89歳であり、長嶋氏も89歳で永眠されたことに、同年代の親を持つ私としても、また入居者・利用者のご家族のみなさまも、何かを感じられたのではないのでしょうか。施設を利用していた

だいているみなさまには、人生の晩年に、私たち桜の郷元気を選んでくださった事に、深く感謝をし、同時に法人理念でもある、「あつてよかった・いてよかった」とみなさんに感じていただけるよう、日々の運営の指揮をとってまいりたいと思います。2025年・令和7年は、昭和の元号では100年目にあたります。大きな時代の変わり目にかかっている予感を抱いています。この流れを読み間違えないように、法人・事業所としても、アンテナを高い位置に設定し直して、仲間と共に、知恵を出し合っていかなければなりません。どんな人でも、過去や歴史を変えることはできませんし、過ぎ去った時間を戻すことはできません。まだまだ、私も未熟者であり、社会の中ではもう一汗かかなければなりません。法人運営と同じく、地域福祉向上のためにも、学びを深めていきたいです。幸いに私自身は同僚や部下等の仲間に恵まれており、この仲間から日々、たくさんのことを学ばせてもらっています。この仲間への恩返しも、私自身の大切な仕事になっていくはずです。

(令和7年6月8日)

介護教室を通して得たこと

桜の郷元氣 萌木ユニット 田中 栄江

桜の郷元氣では、創立二十周年が過ぎ、地域の皆様に支えられながら入居者様のケアを行っています。そんな地域の皆様に恩返しができないかと考え、地域の皆様に向けて介護の勉強会を行っています。

介護教室は第一回は「腰痛予防」、第二回は「口腔ケアと嚥下」、今回の第三回は「認知症と物忘れ」をテーマに開催しました。

「認知症」とは、様々な原因で脳の働きが悪くなることで障害が起り、生活するうえで支障が出ている状態のことを指します。

もの忘れには「加齢」によるものと「認知症」が原因となるものがあります。もの忘れは、ヒントがあれば思い出すことができます。本人に自覚はありますが、進行性はなく、また日常生活に支障をきたしません。認知症は、脳の神経細胞の急激な破壊による起り、もの忘れは物事全体がすっぽりと抜け落ち、ヒントを与えても思い出すことができません。本人に自覚がなく、進行性

であり、日常生活に支障をきたします。認知症高齢者の数はますます増加しています。認知症の種類も様々あり、種類ごとに症状や原因も異なります。種類によっては、治療で症状の進行がゆるやかになったり、改善したりするケースもあります。いずれの場合も早期発見から治療が重要なので、疑わしい場合はどうすればいいのか、医療機関を受診の検討を薦めています。



認知症の方とうまくつき合っていくためには、家族の理解が不可欠です。認知症の症状が軽いうちに発見できれば、家族といっしょに理解を深めたり話し合いの機会をつくったりすることが出来ます。また、早い段階で介護施設について情報収集をし、選択肢を増やせることもメリットといえるでしょう。そして、これらのサービスを利用することは、家族の負担を減らすことにもつながります。認知症予防のポイントは、健康維持を心掛けることです。今回は、息抜きに記憶テストを行いました。一分間で絵を覚えて頂き、質問をし



しました。時間が経つほど記憶があいまいになる事が理解して頂けました。今回初めての介護教室を通じて誰かに伝える場に立ち、分かりやすく、楽しく学んでいただけたらと考えて準備しました。話を聞いて頂いた方より「よかったよ」「ありがとう」とお声をかけて頂き、やってよかったと励みになりました。

いざ認知症と診断された後は、やるべきことが膨大に出てきます。そんなときに頼れるのは、介護の専門家です。今後も日々勉強しながら安心できるような介護士を目指して進んでいきたいです。

日々を振り返って

ケアプランセンター桜の元氣 主任介護支援専門員 中山 由衣

私は一年と六カ月間の社会福祉士一般養成通信過程を受講し、今年二月の試験に無事に合格することができました。これは私だけの努力で得られたものではなく、資格取得に向けて支援してくれた法人、業務をサポートしてくれた上司や同僚、休日の勉強時間を与えてくれた家族、それぞれが多方面で支えてくれたからこそ合格で、感謝の気持ちでいっぱいです。

なぜ私が社会福祉士を目指したかというと、シンプルに障害を持った方や児童、子育て支援などの幅広い分野の福祉サービスを知りたいという思いからでした。学習を進めるにあたり、制度や保障、サービスなど多くを学びました。そればかりではなく、人との関り方や指導育成など、相談援助職としての在り方も学ぶことができました。

最近が高齢の親が子どもの生活を支えるために負担を請け負う『8050問題』や介護と育児を同時に担う『ダブルケア』など、制度、分野を超えて複合化した課題を持つ

家庭も存在すると言われています。私は大それたことはできませんが、社会福祉士として得た知識を活かし、様々な課題を抱えたご利用者、そしてご家族が安心して生活ができるお手伝いをしていきたいです。

また、社会福祉士になったことがゴールではありません。福祉というのは、時代と共に少しずつ変化していくものだと感じます。今の時代における地域の課題や制度を把握できるよう、これからも学び続け、時代に合わせて変化できる専門職でありたいと思います。



地域のためにできること

桜の郷元氣 生活相談員 高橋 まゆみ

今回は施設を支えてくださっている地域のパートナーである石田様を紹介させていただきます。石田様は、地域とのつながりを持ちながら、介護スタッフがよりご利用者支援に集中して向き合えるよう、環境整備を主に行ってくださいています。

最初の出会いには、桜の郷元氣の居宅介護支援事業所のケアマネージャー

が石田様のご家族を担当させていただいていることがきっかけでした。ケアマネージャーが石田様宅へ訪問に伺った際、「私に何かできることはないでしょうか」と声をかけてください、ボランティアがスタートしました。そんな石田様にいくつかが質問をしてみました。

Q、なぜボランティアをしようと思ったのですか？

A、今も自宅で家族の介護も行っています。施設内でボランティアをしながら、在宅介護の参考になるのではないかと思った。

Q、ボランティアをしてよかった事は何か？

A、優しい声掛けをしようと心掛け

るように職員さんの声掛けが参考になった。人生の先輩や職員とコミュニケーションをとる事が楽しい。

Q、桜の郷元氣に期待することは？
A、このような施設がある事は地域の住人にとってはとてもありがたい。地域の方で私のように体の動く方など、フロアに一人ボランティアの方がいても良い気がします。

今回の石田様の言葉をきっかけに職員も地域ボランティアを迎える心構えとして、指針を作成し、勉強会を行いました。桜の郷元氣はご家族、そして地域の方に支えられ、今があります。毎日、地域の皆様に感謝の気持ちを忘れずに頑張っていくたいと思っています。そして、何より、良いサービスの提供をしていくことが、何より恩返しになると思っております。



三十周年を迎えて



特別養護老人ホームやさと
施設長 高城 裕

泰仁会は、今年三十年の大きな節目を迎えます。やさと拠点においては、令和七年十月一日に「特別養護老人ホームやさと」「シヨートステイやさと」「デイサービスセンターやさと」「軽費老人ホームケアハウスやさと」「石岡市委託在宅介護支援センターやさと」が開設三十周年を迎えます。三十年にわたり地域社会に貢献してきました。これまで、共に支え築いてくれた職員の皆様に心から感謝申し上げます。今後も、福祉サービスを一層充実するためにも、新たな事業展開も検討していきたいと考えています。

さて、令和七年度は、これまでの成果の上に、更に前進する大切な年度となります。これからも地域の社会福祉向上のため、社会福祉法人としての役割を担い、地域貢献活動を拡大させ、地域の社会福祉向上として確固たる拠点を作り、地域において「あつてよかった・いてよかった」となれる存在として法人理念の実現に向け邁進して参ります。

しかし、厳しい社会情勢で当法人も大変な苦戦を強いられています。介護報酬改定や物価高騰、介護人材確保（採用・育成・定着）など、財

政・人材状況ともに難しい局面にあります。

既に取り組んでいる生産性向上推進委員会においては、当たり前を変える、常識を変える行動・覚悟がより一層求められています。私達の仕事の価値を高める取り組みは、介護サービスの質の向上と人材定着につながるものです。仕事へのやりがいや楽しさが実感できる、チームケアの質の向上が法人の永続発展に大きく関わります。そのためには、職員の心身の健康状態改善による生産性の向上も重要です。職員のストレスをケアしたり健康をサポートしたりすることによって、病気や欠勤の頻度を抑えられ結果的には、仕事のパフォーマンス向上にも繋がります。

将来の介護報酬改定においても大きなプラス改定の可能性は低いと考えます。長期視点で考えれば報酬削減とともに、大きな制度改革が行われると思います。昨年度の改定は、改革に向けた、土台づくりを行うための三年間であると理解し、現場の介護の在り方の変革が不可欠であることを留意しなければなりません。

そこで、昨年度の目標に掲げた三つのテーマ①科学的介護（自立支援介護）の実践②持続可能な組織作り③ブランディングの構築を中期計画として継続していきます。

地域への恩返し、共に永続発展していける行動をしていきたいと考えています。今後も施設運営につきまして皆様のご理解ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

家族会開催！

すずらんグループでは三月に家族会を開催しました。グループとしては新型コロナウイルスが流行する前が最後の開催でしたので、実に約五年振りの家族会となりました。

家族会という催しに初めて参加されるご家族ばかりでしたが、本当にたくさんのご家族様に参加して頂けました。

皆様、普段の面会では足りないくらいの様子で楽しく歓談され盛り上がっていました。

やはりご家族との繋がりが、ご利用者にとって何よりもかけがえのないものだと思感できた瞬間でした。



桜の季節！やさとお出かけダイアリー



4月から暖かい日が続き、お散歩や外出行事が増えました。
施設周辺で咲いた桜を見に行ったり、デイサービスやさとは
魚べいでお寿司を食べにいきました。
これから暑くなる季節となりますので、熱中症に気をつけて楽
しんでいきたいと思ひます。



現在ダイエット中！

今日のイキじちゃん



やさにおける福祉機器・ICT機器の導入について（ご紹介）

現在、特養やさとしては、ご利用者の自立支援や安心・安全な生活の実現、職員の負担軽減等を目的として、福祉機器やICT機器を多数導入しております。ご利用者を「持ち上げる、抱え上げる」といった動作が大幅に減り、腰痛発生のリスクを低減できます。また、負担軽減により余裕が生まれることで、より丁寧な個別ケアが提供しやすくなったり、ご利用者の残存能力を活かした自立支援にも繋がっています。



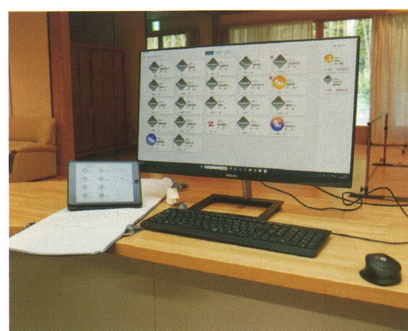
★昇降リフト★

寝たきりの方でも安全にベッドから移乗できる機器です。人力で上げることなく移乗できることから、ご利用者にとって安心できる移乗が可能となります。こちらのリフトは入浴時移乗にも活躍しております。これまでの「抱え上げる介助」がリフトを使用することで腰痛負担も軽減されています。またリフト以外にも、「身体を滑らせて移乗する」ボード型（フレックスボード・イージーグライド）の福祉アイテムも活躍しております。



★スカイリフト★

起立姿勢、座位姿勢で移乗ができる立位補助ロボット（スタンディングリフト）です。主にトイレでの排泄支援や車いすへの移乗に活用しております。立位保持が難しい方の場合、職員2名にて移乗介助を行うこともありましたが、リフト使用により1名で対応可能となり負担も大きく軽減されています。またトイレでの排泄が行えることは、ご利用者にとって意欲や自信回復に繋がり、移動や移乗・立位保持などの機能回復を目指す意欲にも繋がることが期待されています。



★眠りスキャン★

「体動センサーを用いた見守り支援システム」の機能により、睡眠状況や呼吸・心拍がタイムリーに記録され、データに基づき、ご利用者の状態に合わせた必要な対応や個別ケアに活かされております。

誰もが輝ける 社会へ

泰仁会では五月に茨城県よりダイバーシティ推進に関する取材を受けました。

取材において泰仁会の今までの取り組みや、これからの課題についてお伝えすることができました。

これからも様々な人材が能力を最大限発揮できる環境作りに取り組んでまいります。



～事故対策委員会より～

・ご利用者が安全に過ごせるよう、発生した事故やヒヤリハットの分析を行い、最善の予防策がとれるよう危機意識をもって取り組んでまいります。

【桜の郷 元気】

月	12月	1月	2月	3月	合計
ヒヤリ・ハット	103件	134件	138件	139件	514件
事故	8件	15件	11件	15件	49件

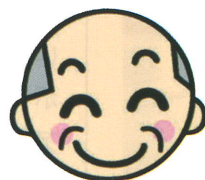
桜の郷元気の数字内にひたちの長岡の件数も含まれています。

【やさと】

月	12月	1月	2月	3月	合計
ヒヤリ・ハット	226件	177件	172件	163件	738件
事故	26件	31件	21件	14件	92件

やさとの数字内にデイサービスやさと、ケアハウス、GHさわらび、国府あおいの件数も含まれています。

合格おめでとう！



【社会福祉士】

・中山 由衣

【介護支援専門員】

・武川 幸子

・永嶋 あや

・鈴木めぐみ

【介護福祉士】

・市村 隆之介

・中村 幸世

・富田 洋子

・清水 れい子

・岩瀬 幸恵

・君山 奈保

・ディラ

・ジェーネット

・ケント

・小沼 友乃

～身体拘束適正化・高齢者虐待防止委員会より～

・現在身体拘束の対象となる方はおりません。虐待防止委員会と連携し、引き続き取り組みを強化していきます。（やさと）

月	12月	1月	2月	3月	合計
桜の郷元気	0件	0件	0件	0件	0件
やさと	0件	0件	0件	0件	0件

～苦情処理委員会より～

【ご意見・苦情内容】

・支援方法や体調不良時の連絡、計画書の郵送についてご意見をいただきました。委員会にて再発防止対策を全部署で取り組んでおります。（やさと）
・施設内預かり金の取り扱いについてご意見をいただきました。規定に基づき適切な管理を徹底していきます。（桜の郷元気）

月	12月	1月	2月	3月	合計
桜の郷元気	0件	0件	0件	1件	1件
やさと	1件	0件	1件	1件	3件

新人紹介

特養やさと、桜の郷元気では四月から新たに四名の新人職員を迎えました。

日々経験を積み重ねて多くの知識やスキルを磨いていってください。



編集後記

春の訪れと新年度が始まりました。四月中旬からは温かい日が多くなり、ご家族、職員と一緒に外へお出かけしてお花見をすることが増えました。新しい職員を迎え、一緒に接すると自分自身も入職したてのころを懐かしく思います。

(K・M)